

パスカル・ゴダール ピアノリサイタル

ピアノソナタ op.53「ワルトシュタイン」……………ベートーヴェン
夜のガスパール……………ラヴェル
展覧会の絵……………ムソルグスキー

夏

1997 四季のコンサート ふれあい音楽会

1997年5月13日(火) 6:45PM
会場：浜松市教育文化会館
主催：浜松音楽友の会

パスカル・ゴダール (ピアノ)
1971年生まれ。R.アシュメソンのもとで学んだ後、パリ国立音楽院にてイヴォンヌ・ロ
リオ・メシアンに師事、ピアノ科、室内楽科、伴奏科のそれぞれで第1位を得る。
その後E.ヴァルワローヴァ、V.サハロフに学んだ後、ドイツ・ハンノーファー音楽大学
にてウラジミール・クライネフに師事。
1990年ボルト・コンクールにて1位、1993年ミラノのデイト・チャニー・コンクールに
て2位、クリーナラント、東京にても入賞を果たした。
ヨーロッパ及び日本の多くのオーケストラに招待され、バリのサル・フレイエル、モス
クワのチャイコフスキーホールとボリシヨイホール、ペテルスブルグのツィルハーモニー
ホール、ミラノのスカラ座などで共演した。また、ラジオ・フランスのモンペリエやベル
ン、横浜等の多くの国際音楽祭にも定期的に招待されている。
1996年3月、マリア・カラス・コンクールにてグランプリを獲得し、この偉大な歌手の
没後20年を記念したコンサートに招かれ、アテネの古代劇場にてリサイタルを行った。

ピアノリサイタル

パスカル・ゴダール
ピアノリサイタル



PASCAL GODART
PIANO RECITAL

●ベートーヴェン／ピアノ・ソナタ 第21番 ハ長調 作品53 「ワルトシュタイン」

作曲年：1803年～1804年

ベートーヴェン（1770～1827）のよき理解者であったワルトシュタイン伯爵に献呈されていることからこの名前で呼ばれるようになりました。「英雄交響曲」などと同じ頃に書かれた中期を代表する傑作のひとつです。ベートーヴェンが残したピアノ・ソナタは習作時代のもを除いて全32曲ありますが、常に異なったアイディアで書かれている点が素晴らしいといえます。彫りの深い楽想、雄大なスケールをもつ構成、そして輝かしい演奏技巧など、どの点からも傑作の名にふさわしい代表作です。

第1楽章：アレグロ・コン・ブリオ、ハ長調、4/4。ハ長調の和音が刻まれながら徐々に現れる第1主題と、コラル風の穏やかな表情をもった第2主題によるソナタ形式で書かれています。

第2楽章：アダージョ・モルト、ハ長調の「導入部」に続いて、アレグレット・モデラート、ハ長調のロンドとなります。

●ラヴェル／夜のガスパール 作曲年：1908年

この作品は、ラヴェル（1875～1937）の数多いピアノ作品の中でも、もっとも高度な技巧を要する作品として大変有名です。曲は、19世紀前半のフランスの詩人ルイ・アロジエス・ベルトランの同名の散文詩から選ばれた3つの詩によって書かれたもので、暗く神秘的な幻想味と豊かなロマン性は、ラヴェルとしては、むしろ特異のものといえてよいでしょう。

第1曲：「オンディース」 湖の底深いところに住むオンディース（水の精）、夫に迎えた人間の若者の裏切りに対する恨みが絶妙な色彩で描かれます。

第2曲：「絞首台」 鐘の音を模した変口音が全曲を通して不気味に鳴り響きます。

第3曲：「スカルボ」 地の精であるグロテスクな小人スカルボを描いた曲。もっとも高度な技巧が要求される作品として知られています。

●ムソルグスキー／組曲「展覧会の絵」 作曲年：1874年

ムソルグスキー（1839～1881）は、いわゆる「ロシア五人組」のひとりとして知られる、ロシア国民楽派の代表的作曲家です。洗練された味わいをもつ同時代のチャイコフスキーとは対照的に、音楽とは完成された形式よりも「話言葉を音楽に再現」したような雄弁なものでなければならぬ、と考えていました。その音楽は、粗削りで奔放ではありますが、驚くほど雄弁で直截な表現力をもっています。

ピアノ曲「展覧会の絵」は、ムソルグスキーが深い共感を抱いていた親友の建築家であり画家のハルトマンの死に伴って生まれた作品で、1874年、彼の早世を惜しんだ遺作展が開かれ、その展覧会の印象をもとに作曲されたものです。ムソルグスキー独特のスケールの大きい写実性を活かしながら、驚くほど色彩豊かな音楽となっています。

曲は、「プロムナード」と呼ばれる前奏にはじまり、10枚の絵による曲がつづけていきます。また、「プロムナード」は、ときおり間奏として、各曲の間に挿入され、これが、ちょうど展覧会で、一枚の絵から次への歩行を表しているかのようです。

第1曲：「小人」 小人は地底を守る神。その小人が奇妙な足どりで歩く姿と、陰うつな気分が表されています。

第2曲：「古城」 アンダンテ、8分の6拍子のリズムによって印象的な古雅ともいえる旋律が静かに奏されていきます。

第3曲：「チュイルリーの庭」 パリの中心チュイルリー公園で、遊びつかれた子供たちが口論する情景が描かれています。

第4曲：「ビドロ（牛車）」 重々しいリズムが牛車の動きを写実的に表しています。

第5曲：「殻をつけたひなの踊り」 バレエ「トリルビ」のための衣装デザインをもとに書かれました。殻からかえったばかりのひな鳥たちのユーモラスな動きを写実しています。

第6曲：「サムエル・ゴールデンベルクとシュムイレ」 金持ちで尊大なユダヤ人、ゴールデンベルクと、貧乏で卑屈なユダヤ人、シュムイレの二人のユダヤ人の性格を風刺しています。

第7曲：「リモージュの市場」 市場に集まったおかみさんたちの絶え間ないおしゃべり。

第8曲：「カタコンブ」 カタコンブとは、ローマ時代の地下墓のことです。和音の連続により、不気味さを表しています。

第9曲：「鶏の足の上の小屋」 めんどりの足の上に立っている、妖婆バーバ・ヤーガの小屋の形をした時計のデザインにもとづいています。

第10曲：「キエフの門」 キエフに建造される大門の設計図に靈感を得たもの。堂々とした主題とコタールによって、圧倒的なクライマックスを形成します。